

非 塞 抗 酸 菌 症



原因 マイコバクテリウムという細菌の感染で起こります。
食肉検査では 腸間膜リンパ節に病変が見られる事が多く、その場合には腸管のみが廃棄になります。肝臓や肺など全身に見られた場合には**全部廃棄**になります。

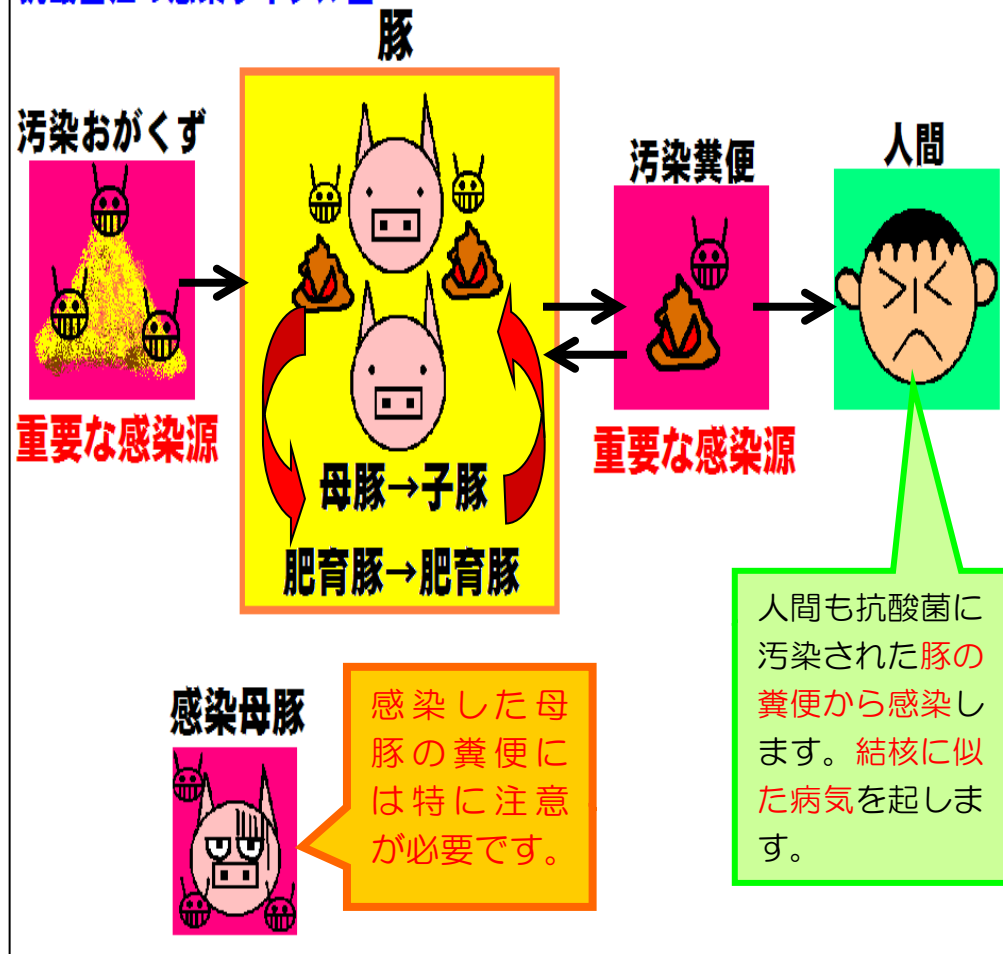
予防・対策 豚が感染しているかどうかは、耳翼に鳥型ツベルクリンを注射して調べます（ツベルクリン反応）

- ・陽性豚が少数の場合→陽性豚を隔離し、早めに淘汰する。
- ・陽性豚が多数の場合→陽性豚と陰性豚を分離し、陽性豚を淘汰する。
- ・毎日の作業では①おがくずは使用しない。
 - ②豚房の糞便は毎日搬出する。
 - ③2～3日に一度は、清掃後に消石灰を豚房や通路に白くなる程度に散布する。
 - ④豚房の掃除や餌やりなどの作業は、陰性豚から行う。



腸間膜リンパ節にみられた抗酸菌症病変

抗酸菌症の感染サイクル図



	H29	H30
検査頭数（頭）	185,158	197,341
廃棄頭数（頭）	143	153
廃棄率（％）	0.08	0.08

※当所における腸抗酸菌症による腸の廃棄率（豚）

リーフレットの内容に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい

北海道東藻琴食肉衛生検査所 TEL 0152-66-2001 FAX 0152-66-3576

HP <http://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp/ds/hse/index.htm>